

## 令和6年度（所属名）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	教育公務員としての職責を自覚し、法令遵守意識の徹底を図ることで、公務外非行を未然に防止する。	引き続き、事故・不祥事防止研修を毎月実施し、若手職員を中心に輪番で提案者になって議論をしたり、テーマを決めて討議を行ったりなどして意識の向上に努め、風通しの良い職場づくりに向けた活動を推進することができた。
職場のハラスメントの防止	人権に配慮し、尊重した対応を身につける。	多くの職員と管理職との面談を頻繁に行い、職員が不安に感じていることなどの共有に努め、職員間の融和を図った。また、ハラスメントに関する研修を数回行い、職員が問題を自分事として捉えるよう努めた。
わいせつ・セクハラ行為及び体罰・不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、冷静に真摯な態度で指導にあたる。	生活支援グループだけでなく、SCやSSWとも頻繁に情報交換を行い、生徒の状況を細かに把握することに努めた。また、サポートドックを積極的に活用して面談を行い、問題の把握と状況の改善につとめた。
成績処理や進路関係業務における個人情報に係わる事故防止	成績処理等に係わる事故防止のための体制作りを行う。 進路関係の正確かつ適正な事務処理を徹底する。	成績処理に関する事故防止会議を通じて、処理の手順を確認するとともに、複数の職員で点検を徹底するなど事故防止に努めた。 推薦入試に関する業務については、生徒が提出する書類の形式を改めるなど、事故が起こりにくい仕組みの構築を推進した。
入学者選抜に係る事故防止	県民に信頼される入学者選抜業務の体制の確立。	入学者選抜業務の遂行にあたっては、複数の職員による丁寧な作業を心がけ、交代で行う業務も引き継ぎが確実に行われるように手順を改善した。
危機管理時を含む業務執行体制の確保	危機の状況に応じて適切な業務を執行する。 円滑な学校運営のため、合理的かつ前向きな業務執行体制を確立させる。	台風10号と文化祭が重なり多少の混乱があったが、これを機に荒天時の対応方法について規定を整理することができた。また、大磯町と連携して避難確保計画を策定した。 校務分掌ごとの業務を再点検し、担当総括教諭を中心に進行管理に努めるとともに、企画会議での議論を活発に行い、横の連携も強化することができた。
財務事務等の適正執行	適正な私費の徴収・執行を行う。	部活動の合宿費の会計報告の遅れやPTA専門委員会の小口現金で出納の遅れがあったが、おおむね適切で適正な会計処理が行われた。支出帳票の様式の不統一については来年度に改善をしたい。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

すべての課題・目標についておおむね達成することができたと評価している。風通しの良い職場づくりに向けた職員の意識も向上し、コミュニケーションが活発になっている。生徒に関する小さな情報も管理職が共有できており、課題には迅速に対応している。引き続き来年度も事故不祥事を他人事ではなく、自分たちの問題であると捉えられるよう職員を指導し、職場の融和を図っていききたい。